

第17回おいしい水づくり推進懇話会

日時 平成26年8月1日（金）
午後2時～

会場 千葉県水道局幕張庁舎
2階特別会議室

次 第

- 1 開会
- 2 局長挨拶
- 3 座長挨拶
- 4 議題
 - (1) おいしい水づくり計画の各施策について
 - ① 技術的な取組み
 - ② 安全・安心・おいしい水づくりキャンペーン
 - ③ お客様と協働した取組み
 - (2) 受水槽内塩素消費量実態調査
 - (3) カルキ臭に関する試飲
- 5 懇談
- 6 その他
- 7 閉会

第17回おいしい水づくり推進懇話会議事録（要旨）

【技術的な取組み】

- (構成員) 水の安全性を考えると残留塩素は高いほうがいいが、カルキ臭は下げたほうが良い。残留塩素の低減化が進むと施設内の残留塩素の管理をどうしたら良いか悩ましい。
- (構成員) (残留塩素の低減化) について、千葉県の取り組みは早いほうなのか。
- (事務局) 平成9年頃から先行的に取り組んでいます。
- (構成員) 高度浄水処理や多点注入の導入は、本当に良いと思う。
- (構成員) 多点注入は、千葉県だけが導入しているのか。
- (事務局) 先進的な取り組みだと思います。
- (構成員) (栗山浄水場の浄水機能をちば野菊の里浄水場へ移転した後に) 栗山浄水場の跡地はどうなるのか。
- (水道局) 配水池、配水ポンプや高架水槽は残すことを考えています。跡地をどのようにするかは、今後検討します。

【安全・安心・おいしい水づくりキャンペーン】

- (構成員) この会が始まった時と比較して、明らかに水道水はおいしくなっていると思う。「おいしくなります。ちばの水」は、この会が始まった時に作られた標語で、(今は) もうおいしくなっているので、そのことをPRしても良いと思う。

【お客様と協働した取組み】

- (構成員) インターネットモニターの年齢構成を見ると、男性の年輩の人が多い。年齢が上になると官能検査的なものは鈍くなってくるので、男性も若い人が増えると結果が少し変わるかもしれない。
- (構成員) 直結方式と受水槽方式に分けたアンケート等の集計結果について、直結方式のほうが塩素臭を感じる方が多いのは、受水槽が一時的に水を貯めて塩素が蒸発するのに比べ、直結はダイレクトに塩素の影響があるからだと思う。
ある面では、塩素臭を感じるほうが受水槽が適切に管理されているという気もする。
- (構成員) 6～9ページの結果について、ウォーターメイトの方とかアンケートをとった方に報告しているのか。
- (事務局) ウォーターメイトの方には、ウォーターメイトミーティングを開催して、そこで結果報告をしていますが、(今回の) 直結方式と受水槽方式に区分けしての集計結果は報告していません。

【受水槽内塩素消費量実態調査】

- (構成員) 11 ページの残留塩素減少速度係数 k の予測モデルについて、フィードバックにより精度を上げる計画はあるか。
- (事務局) 追加調査は予定しておりませんので、フィードバックする計画はありません。
- (構成員) 12 ページの配管・高置水槽での塩素消費量について、追加調査により精度を上げる計画はあるか。高置水槽の有無や経年劣化の状況により差が生じると思うが。
- (事務局) この調査は、お客様の施設をお借りして行っているため、追加調査を行うのは難しいです。
- (構成員) 洗濯機やトイレ等で節水化が進んでいて、受水槽の滞留日数も長くなる傾向にあるので、(滞留日数の短縮は) 難しいと思う。
- (構成員) 受水槽の滞留日数を短くするためにマンションの管理者へ受水槽の貯留量を減らすようアドバイスをしたらどうか。
- (事務局) 当局では、貯水槽水道を対象とした巡回サービスを行っており、その中でアドバイスを行っている。ただし、巡回サービスを受けてくれる施設が少なく、対応に苦慮している。
- (構成員) 受水槽の定期清掃をしなかったら水道料金を割増しにするとか、巡回サービスを受けてもらえれば割引にするとかできないでしょうか。水道局側から指導を強めにすることはできないか。
- (事務局) 水道局には法的な権限が無いので難しいです。受水槽の使用者から依頼があれば、水質検査は行っています。今のやり方では限界があるので、水道局としても(受水槽を適正管理してもらうための方策について) 考えていく必要があると考えています。
- (構成員) 水質検査を行っていることを、もっと情報発信したほうが良い。これから高齢化が進み、空きマンションも増えてくると、受水槽に貯まっている水がうまく何回も循環しなくなる。
- (構成員) 色々情報は発信されているが、そういうの(受水槽の水質検査の情報等) がうまく流れれば良いと思う。
- (構成員) (配管・高置水槽の塩素消費量について、調査結果の平均値から算出した) 0.13mg/L の数値について、水道は皆さんが飲むものなので、平均では無く、もうちょっと高いところのデータも出してもらえると良かった。
- (構成員) 例えば、12 ページの図. 20 のように掃除をしないとこんなに悪いんだというデータを(受水槽を使用しているお客様へお見せして) 客観的に判断してもらっては。せっかくここまでデータを出しているため、(受水槽の) 清掃や検査をしてもらえるよう、うまく活用いただきたい。
- (水道局) 受水槽の定期清掃の有無による(塩素消費量の) 違いのデータについては、広報活

動にどのように活かしていくか考えていきたいと思います。今回のデータはホームページで公表します。

【カルキ臭に関する試飲】

現在の水道水のカルキ臭を体感してもらうために試飲を実施した。試飲には、以下の5種類の水を用いた。

- ① 柏井浄水場西側施設の浄水を精製水で2倍希釈したもの
- ② 柏井浄水場西側施設の浄水
- ③ 柏井浄水場西側施設系統の給水栓水を精製水で2倍希釈したもの
- ④ 無臭水（精製水）
- ⑤ 柏井浄水場西側施設系統の給水栓水

これらについて、構成員と当局職員がカルキ臭を判定（判定方法は、カルキ臭を感じ無い→「無」、わずかに感じる→「微」、はっきりと感じる→「有」とした。）したところ、⑤→②→③→①→④の順でカルキ臭を感じる人が多かった。

（構成員） 臭いが無いというのはわかったが、「微」と「有」の区別がわからなかった。「有」としたものが後で違うかなと思った。

（構成員） 私はいつも水道水を飲んでいるので、慣れているからか、無臭以外はそんなに違いは感じられなかった。不快とは思わない。

（構成員） トリクロロアミンの数値が一番高かったのが0.055mg/Lでしたが、（カルキ臭が）わかりやすいと思った。一つの指標にはなる。

（構成員） 今までの話では、（トリクロロアミンの目標値を）検出限界の0.02mg/Lか0.03mg/Lにするということだったと思うが、（今回、試飲した検体の）0.055mg/Lでも不快まではいかない。

（構成員） （他の構成員の）話を聞いていると、普通の水道水でおいしくなっているとのことなので、無理なところに（おいしい水づくり計画の水質目標値を）設定する必要も無いのかと。

【その他】

（構成員） （水道水の）安全性をもっと知らせたほうが良い。ボトル水を買う方がいるが、その安全基準が下回っているという新聞報道があり、安全性というものが一番大事だということを消費者も再認識する必要がある。

【今後の進め方】

(構成員) 最初の頃は残留塩素が 0.8mg/L あって、今 0.56mg/L というのは意外と（カルキ臭）は気にならないところに来ていると実感している。今後、（残留塩素を）下げるかはトリクロラミンの関係で考えていくということだったと思うが、今回、色々データが出てきたので、まとめに向けて見極めていく必要があると思う。

【次回の予定】

(事務局) 今年度の懇話会は、塩素多点注入の中間報告結果など、構成員の皆様にご意見を伺いたいテーマも多いので、3回の開催を予定しています。次回は11月頃を予定しています。